

ひとはく 研究員 だより

私たちが生活する中で、最も目に入る緑の一つとして街路樹があります。街路樹は、色んな建物の前面にあるので、街路樹を美しく保つとどのようなまちでも景観が良くなります。

美しい街並みと街路樹が調和した景観は、まちの顔となって、「行ってみたい」「住んでみたい」と思う理由にもなります。国内で有名な街路樹としては、東京・表参道や仙台・青葉通りのケヤキ並木、大阪・御堂筋のイチヨウ並木、国立市・大学通りのサクラ並木などがあります。

兵庫県では、神戸市・フラワースロードや姫路市・大手前通りのクスノ

主任研究員 赤澤宏樹さん



キ並木、豊岡市・城崎温泉のシダレヤナギなどが有名で、ニュータウンである神戸・三田国際公園都市のように「けやき台」「ゆりのき台」など街路樹が地名になっているまちもあります。

一方で、街路樹は道路空間に植えられるため、地面は強く締め固められて根が張りにくく、アスファルトやブロックによって雨水が染みこまず、建物の陰になることが多い、悪い環境で生育しています。そして、ほとんどが行政の持つ土地に、行政が植えて、行政が管理しているため、世話が行き届かないこともあります。落ち葉のシーズンの前に、「掃

市民が植栽・管理する米・シアトルの街路樹



除が大変だから、夏の間には枝ごと切ってしまう」という要望の電話も多く、パツンパツンに切られることもあります。私たちの生活周りの環境として、どうやったら街路樹を健全

街路樹で変わるまちの景観

米では7割が民間の管理

に育てることができるとはどういう?

アメリカでは州により異なりますが、行政が管理する街路樹は3割程度で、残りの7割程度は個人や事業者が植えて管理しています。自分の好きな街路樹を植えることもできるので、家ごとに前の街路樹の種類や高さが違ったりします。並木のような統一感はありませんが、地域の個性が出て、楽しい庭のような景観ができています。自分で植えた街路樹なので、とても大切に育てるため、大きく豊かな街路樹になることが多いというメリットもあります。

日本でも、例えば住宅地では、アメリカのように個人や自治会で街路樹を植えたり、管理したりしてもよいのではないのでしょうか。商業地域では、カフェのオーナーが前の街路樹をおしゃれに植えたら、楽しいまちになりそうです。これから少しずつ、自分たちの大切な環境として、みんなが街路樹を育てる時代がやってくるかもしれません。